

誰にも気兼ねなく生きる。 日々を大切に生きる

大阪〈ゆうゆうの里〉 赤田 照子様（85歳）平成16年入居時一人入居



兄弟の反対を乗り越えての
入居でした

主人を亡くして間もなく一人の暮しが不安になりました。住宅や庭の手入れも大変ですし、不用心も心配になりました。亡夫の月参



クイーンエリザベス2号の船旅（左端が赤田様）

りに来て下さるお寺の導師に、へゆうゆうの里の事を教えてもらったことが検討のきっかけになりました。「百人展」を見学したときに、車椅子を押す職員の優しい姿、振る舞いに温かみを感じて、内心ではこと決めました。

ところが兄弟は全員が反対。「そんなところに行かなくても」と、弟たちが自宅に來ないかと言ってくれたのです。しかし、それは弟も私も健康で動ける身だから言えること。私は「あなたたちの子供は、親でもないおばちゃん面倒を見てくれるの?」と言って納得してもらいました。その弟が3年前に亡くなりました。もし、弟のところを身を寄せていたら、今頃は気兼ねしながら暮らしていたことでしょう。自分の意思で生きる道を選べたことに感謝しています。

年を重ねるごとに入居して
良かったと

1年目は慣れるのに大変でしたが、2年目はすっかり雰囲気慣れました。3年目には余裕が出来て、入居者の友人と旅行に行くようになりました。その旅行から帰って来たとき、へゆうゆうの里の建物にぼつぼつと灯りが付いているのを見て、懐かしい我が家に帰って来たような気持ちになりました。それまでは、嫌なことがあつたら家に帰ろうと荷物をそのままにしていたましたが、きっぱりと荷物も処分し家も売却してしまいました。住んでいた家に執着していたらこの生活はなかったかな。前の家では用心のため3つも鍵をかけて出かけましたが、今は鍵一つで気軽にどこへでも行けます。何より安心して暮らせるし寂しく有

りません。それが老後の生活にとってどんなに大切なことかと実感しています。
好きな旅行だから、年代ごとの楽しみ方を見つけない

入居してからも旅行は大の楽しみです。入居者はじめ、いろいろな友人、妹らと1年に6回位行きます。大浴場でご入居者の楽しい情報を聞いて、行く気になる旅行もあれば、毎年別荘代わりの宿に行く旅もあります。旅先の失敗も楽しい。たまにはクイーンエリザベス号のような大型客船でのんびりと船の旅を楽しみます。以前は長時間の飛行機や若い人と一緒にのツアーも苦にせず海外旅行もしました。でも、そういう旅行が負担になれば船がお奨めです。船なら港で遊べたり、バスで見学したり、誰にも迷惑かけずに楽しめます。クイーンエリザベス号の船内では、正装しての食事、カジノやダンスも楽しみました。旅も年相応に変わっていくのは当たり前。これからも、その時ならではの楽しみ方を見つけて毎日を大切に生きて行きます。